



【PROFILE】
グスタフ・ストランデル◎Gustav Strandell
1974年 スウェーデン生まれ。ストックホルム大学卒業し、高齢者福祉をテーマにスウェーデンと日本両国で調査・研究に邁進する。元 スウェーデン福祉研究所所長、日本 スウェーデン福祉研究所取締役就任し、2012年より舞浜倶楽部代表取締役社長に。現在に至る。著書に「私たちの認知症」(幻冬舎)など。

業した舞浜倶楽部は、ユニークな有料老人ホームを創るにはスウェーデンの福祉を参考にすべきだとこの立場でした。つまり、「スウェーデンの福祉を参考にしたい」という僕と、「スウェーデンの福祉を参考にしたい」という舞浜倶楽部が、自然な接点を持って出会ったのです。

ご家族をもっとも悩ます複雑な病の一つです。だからこそ、介護施設にとって認知症ケアの提供は当然で、認知症を専門的に扱えないようではケアにならないと考えています。認知症を治す薬はなく緩和する病と捉えられています。ここでも患者さんの生活の質を守るための「緩和ケア」を提供しています。そのノウハウとして参考にしているのが、世界屈指の先進的な認知症ケアを実践しているスウェーデンのシルヴァーホームです。例えば、心を込めて体に触れることで安らぎを与えるタケティールケアや、音楽によって脳機能を活性化させるフンネソッドなど、これらはシルヴァーホームで実際に効果を

に体が悪くなる傾向がありますが、和食は美味しいほどに体にも良くできています。だからこそ食事にはこだわり、お金がかかっても外部の企業に業務委託はしません。東京の某有名料亭より料理長を招いて、自分達の直営で料理をつくるようにしているのです。介護施設で「食事が美味しい」という評判はなかなか生まれにくいものですが、僕は自信を持って美味しとおすすめています。

お風呂も日本の文化には欠かせない存在です。温泉や銭湯で日頃の疲れを癒すように、高齢になってもお風呂は心の癒しに他なりません。いつまでもお風呂は日常生活の中の大切な一部なのです。だからこそ大浴

場はあえてクラシックな銭湯のような環境にし、檜風呂もご用意しました。もちろん寝たきりの方には機械浴もありますが、お風呂がもたらす癒し効果を存分に堪能できるため、ほとんどの入居者の方は檜風呂を利用されています。

接遇に対しても、これまで高齢者を子供扱いする施設を山ほど見てきましたが、舞浜倶楽部では丁寧な対応をスタッフに徹底させています。欧米では丁寧なサービスは、時として冷たく距離を感じてしまうことがあります。しかし、「おもてなし」という言葉に集約される日本の優れた接遇は、丁寧でありながら親しみがあつて暖かい。人生の大先輩に対しておもてなしの気持ちで接し、彼らが生きてきた長い年月に敬意を払うことは必要なことだと考えています。

認知症緩和ケア専用開発されたフンネ楽器。



in search of Quality of Life

舞浜倶楽部のスウェーデンケア

舞浜倶楽部 代表取締役社長

グスタフ・ストランデルさん

CEO Gustaf Strandell

先進国スウェーデンの福祉の導入に積極的だったダイニチ代表取締役社長の六井元一氏(右)とともに笑顔を見せる舞浜倶楽部代表取締役のグスタフ・ストランデル氏(左)。

福祉先進国スウェーデンのメソッドを探り入れながら、日本に合ったケアを提供することで、入居者の「生活の質」の向上を図る舞浜倶楽部の介護付き有料老人ホーム。早くから日本とスウェーデンの福祉を調査・研究し、幅広い知識とノウハウを有す同倶楽部の代表グスタフ・ストランデル氏が、自らが日本で築き上げてきた老人ホームの魅力を語ってくれた。

日本との出会い

私が日本で暮らすようになったのは剣道がきっかけです。スウェーデンで接点のあった日本人が小さな道場を開いていたこともあり、剣道に励むようになり、18歳の時に日本の高校に留学をしました。もちろん当時は福祉のことなど頭にありません。外から自分の国を見ると初めて分かることが多々あるように、私も高齢者福祉改革の原点がスウェーデンにあることを日本に来て初めて知りました。

舞浜倶楽部との接点

90年代の日本は介護保険制度の施行に先立ち、福祉のことが広く勉強され始めていました。当時、福祉先進国であったスウェーデンやデンマークの福祉が参考にされ、駐日スウェーデン大使館も日本を有望なマーケットと捉えていたのでしょう。介護施設の調査などを行うスウェーデン福



資料の付箋からもグスタフ氏の勤勉さが垣間見える。

さらに前後して、日本だけではなくスウェーデンの介護現場にも詳しい京都大学の外山義教授と偶然出会い、先生と一緒に日本の介護現場を訪ね歩いた経験が大きな財産となりました。2003年には日本スウェーデン福祉研究所のプロジェクトマネージャーに就任し、専門的な見聞からスウェーデンの福祉の理念や仕組みを日本に伝えることになったのです。

他方、不動産業を手掛けるダイニチの六井元一社長が2003年に創



上/舞浜倶楽部 新浦安フォーラム 下右/中庭に面したラウンジ。ここではイベントなども行われる。 中/廊下が長くならないような配慮も。至るところに休憩スペースが設けられている。 左/新たに設けられ別邸「ほし川」。ご家族一緒に特別な食事などに利用できる。



檜風呂は入居者に大人気。



東側に面した居室からは目の前に川が流れ、春になると桜の花が咲き誇る。

Information
舞浜倶楽部 新浦安フォーラム
千葉県浦安市高洲1-2-1
TEL 047-304-2400
<http://www.maihamaclub.co.jp>

舞浜倶楽部のスウェーデンケア

介護付き有料老人ホーム
舞浜倶楽部 新浦安フォーラム

新浦安の閑静な住宅地において、エメラルドグリーンの外壁が目目を引く建物。エルミター・ジュ美術館を模した外観が印象的な舞浜倶楽部 新浦安フォーラムは、地域の顔として愛されている老人ホームだ。デイサービスや小規模多機能施設(ショートステイ)、介護相談センターが入る複合型施設内に2009年にオープン。舞浜倶楽部のもう一つの介護付き有料老人ホーム「富士見サンヴァーロ」とともに、タクト・イールケアやアンネメッドなど、様々な先進的な手法を採り入れ、認知症緩和ケアに積極的に取り組んでいる。

24時間体制で看護師が常駐するほか、高齢者1.5人に対して1人の職員を確保するなど、介護体制の充実度が高いのも特徴。2014年には施設内にクリニックを誘致し、さらに安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいる。

設備の面でもラウンジやカフェテリアなどご家族や友人と一緒に過ごせる場所も充実。新たに純和風の別邸を中庭に設けるなど、生活の質の向上を目指す姿勢は、高い入居率を保つというかたちで評価されている。



がりを築きつづけているところもあります。しかし、日常生活において地域との関わりが不可欠のように、老人ホームでも地域との関係性をどのように保つかがいま、重要なポイントになっています。



地域の人たちとの交流の場となるカフェテリア。

スウェーデンの介護施設に日本の方が多いと感心されるのですが、実はポンドニアでは、地域に住む人々が介護施設に遊びに来ているだけということがよくあります。老人ホームに行けば楽しいことがあると知っているからこそ、地域の人々が集まり、介護施設そのものが自然と交流の場になっているわけです。

舞浜倶楽部でも子育て支援をするNPO法人と連携をして、子育て相談窓口を施設内に定期的に開いてもらったり、カフェテリアに介護を相談できる認知症カフェを設定したりと、地域の方々と接点を持つ機会を提供できるように心掛けて

心を動かされたゲストさんの“心意気”

株式会社 ダイニチ

代表取締役社長
六井元一さん



ゲスト方氏と六井元一氏。

舞浜倶楽部を設立し、総支配人としてゲスト方さんを迎えて老人ホームを運営していた私が、舞浜倶楽部の社長を彼にバトンタッチしたきっかけは、東日本大震災にあります。

当時は東京で暮らす多くの外国人が国外へ退避することが話題になっていた時期。福島原子力発電所からの放射能による汚染被害を危惧しての決断だったんですね。しかし、現場の総責任者だったゲスト方さんは、「船長は船と共にあります！」と一言。私と一緒に施設に泊まり込み、直面していた困難に対して立ち向かってくれたのです。また、液体化現象などの被害を被っていた施設では、ゲスト方さんとスタッフはもちろん、入居者や家族までもが一致団結して、危機を乗り越えてくれました。後に彼らの行動に対してゲスト方さんが「感謝するしかない」と話していたのを覚えています。

一連の出来事を通じて私が彼に対して感じたのは、さすがバイキングの国から日本に留学し、剣道を通じて武士道を身に付けたナイスガイだということ。その時、彼こそが舞浜倶楽部の社長に相応しいと、私の心が動かされたのは間違いありません。

います。施設的设计上、入居者のプライバシーを守れないからと、地域の人々との交流に躊躇する施設もこれまではないありました。しかし、新浦安フォーラムを見ていただいたら分かるように、3層の玄関を設けるなどして入居者のプライバシーが確保されるため、その辺りの不安は一切気にしないで大丈夫です。

理念としての「人格の尊厳」誰でもできる限り自分らしく、自分が好きで慣れている生活を、自分が好きで慣れている環境の中で送

りたいと思うものです。しかし、認知症患者にとっては、自分らしさを保つ環境と生活は決して当然のことではありません。

舞浜倶楽部が「人格の尊厳」を理念に掲げるのは、認知症といった複雑な病気であっても、自分が望む生活や自分らしい生活を送ってほしいとの思いからです。老人ホームの役割は人生の先輩方の最後のお住まいです。だからこそ、私どもは看取りケアもしっかりと提供して入居者の人格を尊び、最後まで生活の質を守っていきます。